

有限会社 グリーンサポート

伊東 代表取締役

～バイオマスポットによるゼロエミッション
とカーボンニュートラルの追求～



■ 技術・製品の概要

【バイオマスプラスチック 育苗・植栽用ポット】（製品名 biopot/ビオポット）

バイオマスプラスチック(トウモロコシ等の澱粉を主原料としたポリ乳酸)の不織布でできた育苗及び植栽のためのポットです。従来のポリポットやポリエステル不織布製の容器では、植栽時の容器剥離が不可欠で廃棄物が発生しますが、この製品は、地中で分解するため容器の剥離作業が不要で、省力化ができるとともに廃棄物が発生しません。



■ 近年の活動状況を教えてください。

昨年1月から、比良山(滋賀県)の閉鎖されたスキー場を元の山へ復元しようという自然回復プロジェクトをスタートしました。この山の樹木の種から発芽した苗をバイオマスポットに植え、ヘリコプターで山上に搬送してポットごと植えました。

今年6月に秋田県で開催された「第59回全国植樹祭」や、今年3月から6月まで開催された「第25回全国都市緑化ぐんまフェア」でも、弊社のバイオマスポットが採用されました。

ぐんまフェアでは、バイオマスポットをマット栽培用として開発した「花マット」が随所で使用されました。

日本で有数のオリーブ産地である小豆島では今年、オリーブ植樹100周年を記念して、「オリーブ百年の森」が作られています。

ここでは、島を訪れた記念としてオリーブの植樹ができるイベントが行われていますが、その木は当社のバイオマスポットが使用されています。

その他、洞爺湖サミット記念「環境総合展 2008」や、エコプロダクツ展など、全国の展示会やイベントへ積極的に出展しています。



第59回全国植樹祭(秋田県)



第59回全国植樹祭(秋田県)

■ 海外への展開について教えてください。

岡山市日中友好協会が、日中緑化交流基金の助成を受けて、中国河南省の洛陽市人民対外友好協会と協力して植林事業を進めています。黄河流域のダム造成によって失われた森林再生のため、当社のバイオマスポットを用いてクヌギ等を植栽しています。

ベトナムや内モンゴルでも同様の取り組みが進行しています



植林事業の状況(中国)



植林事業の状況(中国)

■ 申請後の改良点について教えてください。

バイオマスポットの ZPF 品番は、生分解性の不織布と紙を組み合わせた二重構造のポットですが、申請時の製品では不織布と紙との間に隙間があり、また、紙質の硬い材料を使用していました。

現在のポットは、不織布と紙を特殊技術により一体化させることにより、用土を充填する際に容器が折れ曲がりにくいよう工夫しました。

■ 本事業による普及効果等を教えてください。

府のホームページでの紹介や、府の広報番組「大阪情報箱」で放映されたことから、当社の信頼感や知名度が増したと思います。

問い合わせ件数や売上げも順調に伸びています。

■ 本事業の活用方法について教えてください。

本事業のロゴマーク(Osaka Eco Tech)を弊社のパンフレットやHPに利用しています。

■最後に、本事業へのご要望はございますか。

公共工事に評価技術を指定するなど、府が率先して購入・アピールして欲しい。



会社全景



バイオマスポットからの出根(トマト)